

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2023年 2月 15日

No.11

2023JR総連春闘 スタート！

ベースアップ10,000円要求！！

基準額・最低額・年齢保障給も10,000円改善すること！！

契約社員及び臨時社員、シニア社員の定昇2%の実施と

ベースアップ10,000円を実施すること！！

～「2023年度新賃金要求の申し入れ（申第9号）」第1回交渉報告～

中央本部は本日、「2023年度新賃金申し入れ(申第9号)」とあわせて「諸要求改善に向けた申し入れ(申第10号)」を会社に申し入れ、団体交渉で以下の主張を行ないました。

- ①新型コロナウイルス感染症は依然として収束の目途が立っておらず、感染力の強い新たな変異株が懸念されている。このような状況下でも、私たちは指定公共機関の社会的責任を果たすため、日夜を問わず奮闘している。
- ②会社の経営状況は、厳しい状況であり組合員の協力が必要である。また将来を見据えた会社の基盤づくりが必要である。
- ③昨年、貨物会社は0.1%のベアを実施したが、最近の消費者物価指数は水道光熱費や食料品などの値上げが相次ぎ、実質賃金が大幅に低下している。また社会保険料の改定により、可処分所得は減少しており組合員の生活は更に厳しくなっている。
- ④収入状況が厳しいことは認識しているが、目の前の問題に振り回されるのではなく、人的投資を行ない、JR貨物に求められる商品価値を提供することが重要である。あわせて、運賃値上げなどの必要性を認識するべきではないか。運賃値上げ分を設備投資及び賃上げに充てることが必要と認識している。
- ⑤「中期経営計画2023」の最終年度を迎える。計画達成を担うのは組合員であり、その組合員の生活防衛と、離職防止のためにベースアップの実施を強く求める。
- ⑥会社経営陣は組合員のおかれた現実を真摯に受け止め、労苦に応える責務がある。信義誠実の原則に従って団体交渉を行ない、誠意ある回答を示すことを強く要請する。

これに対して会社は次のように回答しました。

- ①年末から新型コロナウイルス感染症は第8波をむかえ、感染予防をしながら指定公共機関の責務を果たして頂き感謝している。今後も新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底していく。
- ②この間の災害対応に尽力して頂き感謝している。
- ③燃料費の高騰や物価上昇による消費の低迷により、1月期改定ベースからも収支は厳しい現実であるが、回答指定日まで真摯な交渉を行なっていく。

申し入れに引き続き、会社から収入動向・輸送量動向についての団体交渉を行ないました。主な内容は以下の通りです。(次ページへつづく)

【鉄道事業部門】

- ① 1月の収入動向は、新型コロナウイルス感染症及び物価上昇による消費の低迷、BCPによる鉄道利用比率の見直しに加え、風雪害の影響を受け、全ての品目で計画を下回った。その結果、コンテナ全体では対計画△9億5千4百万円(90.2%)となった。
- ② 車扱輸送は、需要がコロナ禍前の水準まで回復していないことに加え、1月中旬の気温が高く推移したことから、灯油を中心に計画を下回った。その結果、対計画△9千2百万円(93.2%)となった。
- ③ 1月のコンテナ輸送量について、農産品・青果物は玉ねぎの作柄不良であった前年を上回ったが、化学薬品と化学工業品及び紙パルプは、需要の減少による生産の減により低調となった。積合せ貨物は、風雪害によりブロックトレインに運休が発生したことや輸送障害に備えた他モード優先利用により前年を下回った。食料工業品は飲料等の値上げの影響により消費が伸びず、低調に推移した。
- ④ 車扱輸送量は、前年に比べ気温が高く推移し、灯油を中心に石油が前年を下回った。結果、輸送量全体では対前年比95.3%となっている。

【事業開発部門】

- ① 関連事業は、新小岩分譲マンションの引き渡しを昨年の9月から開始しており、引き続き販売活動及び引き渡しを進める。来年度は、天竜川分譲マンションの竣工と長浜商業施設の建設を着工する予定である。
- ② 鉄道事業は、計画通り東京レールゲート EAST 及び DPL 札幌レールゲートを開業させた。千葉みなとでは、物流施設である千葉レールゲートが2025年竣工予定であり、福岡県で取得した用地に福岡レールゲートの開業にむけての開発もあわせて進めている。
2022年度1月期改定で+7億円の計画としているが、このままの状況で推移すれば計画は達成できる見込みである。
- ③ 今後は営業部、総合物流部、グループ会社一体となった共同営業を展開し、鉄道輸送への誘致及び総合物流サービスの獲得をめざしていく。

中央本部は、「収入動向が示されたが、会社として次年度にむけてどのように課題を解決するか示していくことが必要である。来年度の事業計画が策定されるが、私たちにとっては人件費に関わる部分である。組合員の生活は昨年から続く大幅な物価上昇によって、大きな負担となっている。社内で要求どおりのベアを出す議論をするべきである」と主張しました。

会社は、「貴組合の意見はしっかり受け止める。KPI、KGI 目標達成のため、輸送量の向上にむけ、引き続き取り組んでいく。現在の状況や世の中の動向を見ながら、回答指定日にむけて真摯に交渉を行なっていきたい」と回答しました。

本日の申し入れにより「2023 JR総連春闘」がスタートしました。中央本部は、社会的使命を果たすためコロナ禍、災害のなかでも職場で必死に苦勞する組合員に報いるため、ベア要求満額回答にむけ最先頭で闘う決意で臨むことを明らかにし、第1回交渉報告とします。

以上

次回、第2回交渉は3月1日(水)です。